

有田市地域公共交通会議（和歌山県有田市）

事業名：平成26年度地域内フィーダ系統

目的 計画 目標 (P)

有田市においても交通弱者といわれる高齢者数が増加傾向にあり、市民生活の中で買い物や通院などの交通手段として、利便性に富み、かつ低運賃で乗車できるバスの運行が、必要不可欠なものになっている。
できるだけ交通空白地域の解消を図るとともに安定してサービスを提供し続けることができる採算性が高い交通システムを再構築することにより、高齢者による交通事故をなくし、マイカーなしでも快適に暮らせる地域づくりを目的とする。

【定量的な目標・効果】

- ◆公共交通空白地域を解消する。
- ◆対象地区人口が減少傾向にある状況の中でも、年間輸送人員、運賃収入を前年度並み100%に維持する。
- ◆日常生活に不可欠な交通手段が確保されるとともに、高齢者等の外出が容易になり、社会参加の促進が期待される。

概要図・参考資料

- 有田市の概要
【人口】30,215人
【面積】36.92平方キロメートル
【高齢化率】30.1%
【過疎地域等指定】半島振興法の適用
(平成26年12月末現在)



- 有田市地域公共交通会議の開催状況
平成25年6月27日開催
・生活交通NW計画について承認

- 平成26年2月27日開催
・ルート及びダイヤ改正案について協議

- 平成26年3月 書面議決
・生活交通NW計画変更について承認

- 平成26年6月26日開催
・生活交通NW計画について承認



具体的取り組み (D)

■ルート及びダイヤ改正

平成26年5月から8系統を6系統にルート再編を実施(全系統が国庫補助金対象)
時刻表の新聞折込み、また、市内の主要公共施設に時刻表を配布し、利用者への周知及び新規開拓に努めた。

■利用促進の実施

市広報誌へ利用促進の記事を掲載した。
市ホームページのトップページにコミュニティバスのバナーを作成し、時刻表、運賃などの情報を見やすくした。

取組みに対する評価 (C)

■ネットワーク計画に掲げられた目標の達成状況

- ・公共交通空白地域の解消: ルート改正により以前から要望のあった停留所を2カ所増やしたことにより、公共交通空白地域の解消につながった。
- ・年間輸送人員: 対前年度92.7%で、前年度並みに維持できなかった。
※新時刻表の作成が遅れたため、ルート及びダイヤ改正が利用者へ十分浸透されなかつたこと、市内を循環するように運行しているため、利用者によっては目的地までの所要時間が長すぎることが目標より乗車数が減少した原因であると考えられる。
- ・ただし、高齢者や障がいの方々の日常生活に不可欠な交通手段としての役割は果たしていると考える。

自己評価から得られた課題、対応 (A)

■今後の改善点及び自己評価から得られた課題とその対応

- ・新たな利用者開拓のために利用促進につながるPR方法を充実させたい。
- ・利用者アンケートを実施することで、利用者の要望等の把握・分析に努め、運行ルートの見直しなど利用促進につながる取り組みを実施する。

アピールポイント、特に工夫した点など

- ・地元特産品のキャラクター(紀州レンジャー)を使用した親しみやすい車体のペイントイング
- ・高齢者運転免許証返納証明書の提示者には、運賃を半額に割引している。
- ・回数券を販売して、リピーターが増加するように努めている。

※枠が足りない場合等適宜作成可、必要に応じて参考資料を添付願います。